

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 平成26年度第1回水戸市スポーツ推進審議会
- 2 開催日時 平成26年7月28日（月） 15時30分から
16時37分まで
- 3 開催場所 ケーズデンキスタジアム水戸（水戸市立競技場）
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 坂場 小弥太, 石崎 功, 安達 薫, 高久 たかみ, 永野 智恵子,
大津 慶子, 沼尻 久, 岩間 秀男, 高橋 五志生, 仁平 克幸,
有川 忠司, 日下 裕弘, 小澤 聡
 - (2) 執行機関 五上 義隆, 笹島 武, 藤田 正大, 谷中 恒夫, 菅原 慎吾
 - (3) その他
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 平成25年度行事報告について（公開）
 - (2) 茨城国体に向けての体育施設整備について（公開）
 - (3) 水戸市スポーツ推進計画について（公開）
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の数（公開した場合に限る。） 0人
- 8 会議資料の名称
水戸市スポーツ推進審議会
- 9 発言の内容
委員長：水戸市附属機関の会議の公開に関する規定に基づき、会議録署名人2人以上を置くこととなっておりますので、委員名簿順に従い、今回出席されている___委員、___委員にお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。
委員：異議なしの声
委員長：本日の議題は、報告事項2件と協議事項1件が予定されております。初めに1号、2号を一括して事務局から説明願います。
執行機関：（資料に基づき報告）

委員長：ただいま事務局から報告がありましたが、御質問、御意見のある方は発言をお願いします。

委員：（質問なし）

委員長：次に、協議第1号の水戸市スポーツ振興計画について事務局からお話し願います。

執行機関：水戸市スポーツ推進計画については、これまでの審議会において委員の皆様にご貴重な御意見を頂きながら、策定に向けて進めてまいりまして、当時はスポーツ振興計画と言っておりましたが、計画の原案を作成するところまで進んでございました。しかし、スポーツ基本法の施行、また23年度の東日本大震災、また新市長の就任、水戸市第5次総合計画から6次総合計画への移行等の諸条件によりまして、平成24年3月27日に開催されましたスポーツ振興審議会において、策定の時期については再検討をとということで委員の皆様には御説明をさせていただいたところでございます。

本年度、水戸市第6次総合計画が策定をされ、スタートいたしましたのを受け、スポーツ推進計画の策定に向けて新たに策定スケジュールを作成いたしましたので、委員の皆様には改めて御協力をお願いしたいと思います。下の表にありますように今年度と来年度、2ヵ年の計画で進めてまいりたいと思います。素案の作成からアンケート、庁内調整、パブリックコメント、文教福祉委員会への報告を経まして、27年度末の28年3月に策定していきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

委員長：事務局から説明がありましたように、スポーツ推進計画を1年半かけて皆さんで考えて作りましょうということです。そのために、これまでやってきた素案があるわけですが、それが皆さんの手元にある水戸市スポーツ振興計画（案）ということで、これは事務局で大変苦勞して立派なものできたなと思ったら、3.11が来たわけでございます。小さいところは幾つか問題もありますけれども、これをたたき台のたたき台にして、素案の素案にいたしまして、これから審議していくということでございます。

そして、市民20歳以上の一般成人のスポーツに対するニーズに関するアンケート調査も必要だということと、水戸市第6次総合計画一みと魁プランですが、これは現在の水戸市のプランで、この線路に沿って水戸市では動いているので、まずはこれに沿う必要があるだろうということです。今日は最初でございますので大雑把に目を通していただきます。スポーツ・レクリエーション活動の推進ということで、総合計画の中のスポーツ推進計画に関係の深い部分を抜粋してあります。生涯スポーツ社会の実現ということが謳われております。

基本的方向は、「誰もが生涯にわたって、気軽にスポーツに親しむことができるよう、各種スポーツ教室の開催やスポーツ団体、指導者の育成を通じた市民スポーツの振興に取り組むとともに、国際的・全国的規模の大会の誘致等に努めるほか、スポーツ・レクリエーション施設の機能充実を図ります」と、これは決まっています、これで市は動いているわけです。ですから我々もこのルールに沿って、新しい、将来性のあるプランを立てていかなければならない。

しかし、これをよく見ますと、元スポーツ振興審議会の方々が努力して議論をされていたことが、全て入っております。ですので、そんなに第6次総合計画も基本的な方向

は変わっておりませんので、後で時間があるときに目を通していただいて、これから議論をしていこうということでございます。

それから市民アンケート調査で、これは前回のものですが、全国レベルの市民ニーズに関する調査がもうできておまして、大体このような設問で行きなさいという雛形があるのです。それに沿って、前回も前々回も行いましたので、今回もそんなに変わらない質問事項になると思います。

また、肝心の水戸市スポーツ振興計画（案）ですが、極めて立派な枠組みで、これは事務局の方が作ってくださったのです。今日これを全部御説明して、皆さんと議論するわけには時間的にいきませんので、これをご覧いただきまして、これから皆様の御意見をたくさん頂きまして修正しながら作っていきたいと思います。

私はじっくり見させていただきましたが、枠組みというか目次の構成が素晴らしいですね。行政の方が作ると大体こういうものになるのですね、非常にしつこいです。

ただ、元々が時間的に古いです。ですので今現在の新しいメンバーの方々の意見を述べていただきまして、それを入れましょう。計画ですから、計画を立てて問題を明らかにして、公明正大に市民に見えるように、時代の流れに沿いながら、あと1年半掛けた時点でベストなものを作りましょうということでございます。

皆さんせっかく今日は辞令を頂いて、これから頑張らしようというところで、それぞれの皆様のお立場からいろいろな問題点が既に幾つかお有りになると思います。最初ですのでお伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。この次の審議会から、これらの基礎資料を踏まえて時間をかけて審議していきたいと思うのですけれどもいかがでしょうか。

今日はせっかくお集まりいただいたので、一言ずつ頂けますでしょうか。

___委員：私が気になっているところは、スポーツの二極化と言ったら言い過ぎなのかもしれないですが、勉強も同様だと言われていますが、非常に熱心であって、ジュニア期などで大会がたくさんある中で、一つ一つの大会を目指して頑張っているお子さん達がたくさんいらっしゃるのですけれども、一方で、大学などの講義でスポーツはどれぐらいやっていますかと手を挙げさせると、ほとんどやっていないということで、すごく熱心なグループは熱心にやっていて、あまりやりたがらないというか、そういう機会に接しない人達は、やはりずっと接しないまま生涯を過ごしていくというか、我々の頃と比べて、更にはっきり分かれてきているのではないかという気がしております。

どうしても子供のうちからプロとまでは言いませんけれども、非常に深いところまでやっていて、私の小学校時代の技術と比べると、格段に上のレベルの練習から試合からを展開しているわけですね、小学生から。レベルが上がったということでは非常に喜ばしいと思いますが、それだけ途中から入りづらく、そういうことも含まれてくるのではないかと思いますので、もう少し広く入りやすく、スポーツで生きていくためにやるのではないと思いますが、そういうことに時間とお金を掛けていく人たちとの差別化をできるだけなくしていけるような取組ができると良いのかなというのは今、気になっている点です。以上でよろしいでしょうか。

委員長：ありがとうございました。その他何かございますでしょうか。

___委員：やはりスポーツをやらない子どもさんとかは、新聞を賑わせている悲しい出来事とかは、ほとんどスポーツをやっていない、家庭環境もあるでしょうけれども友達もいない境遇だと思うので、本当に嘆かわしいことだと思うし、できるだけ友達とか、スポーツ少年団を通してスポーツを多くの人が携わるとか、やるということが本当に深刻なんじゃないかなと思います。

委員長：そうですね、スポーツをするということは勝ち負けも非常に大事なことですけれども、そこには必ず共同体というか仲間がいるわけですね。仲間がいるから自分は何ができるのだと、そういうところまで指導者はきちっと教えていかななくてはならないと思います。

___委員：文科省の管轄になるとと思いますが、小さい時からの幼児教育ではないですけれども、カリキュラムで体育が減らされていて授業日数も少ないです。体育を減らしてほかの学力を強化するような方向になっているのではないかと思います。そうすると、子供が運動する機会、楽しむ機会というのは、実際、小さい時でも外で遊ぶことがなくなった。我々の時には、夜遅くなるまで石蹴りをやったり、縄跳びをやったりした時代でしたから、まして社会の方の目がありました。今は社会の目がありません。だからなかなか他人の子を注意するということができない時代になりました。そういうところも難しいし、我々が一生懸命やろう、指導者を作ろうとしても、なんかポーンと切られた感じがすごくします。下に土台がなければ上には建たないです。その土台が何とかならないのかなという気はいたします。

委員長：そうですね、例えば学習指導要領で新しく、体づくりというものが加わりました。それは小学1年生から高校3年生までずっと必修になったのですけれども、それは要するに運動の動くということの楽しさを身に付けさせたいという基本のところです。学校の現場でもそういうことを頑張りましょうということに力を入れてやっているのですが、その辺もこれからどうなるのか難しいところです。

___委員：先生方も、多分大変だと思います。現場の先生というのは経験がありませんから分かりませんが、自分でやろうと思っても規則だからできないということなどもあるのかなという気もします。

委員長：本当に現場の先生はものすごく忙しくて、私の息子の嫁が中学校の先生ですけれども、毎日毎日、朝早くから夜の8時、9時まで働き詰めで、土日になると部活の顧問ですから、休みがないです。これではやりたい教育はできません。

___委員：水戸市すみよいまちづくり推進協議会というところは、32ブロックの学区があるのですが、例えばその中を見ますと、小学校では1年生から6年生までで50人ぐらいしかいない学校があるわけです。その子どもたちの話を聞きますと、クラスの人数が少ないですから団体競技ができない。それで中学校へ行くと、大きな小学校から来た子供たちは団体競技をやっていますから、そこで格差と言いますか、そういうものができるという事実が水戸市では起きています。

それからもう1つは子ども会です。加入率が2割ぐらいの地区があり、極端な話しぜ

ロのところもあります。ですから小さい時の子ども会の活動がないものですから、ここに書いてある絆とか、一緒にやるということが本当に厳しい状況であります。よく聞いてみますと、みんな親の都合です。子どもはやりたいのです。親が役員をやりたくないとかの理由です。その辺の仕組みをもう少し抜本的に改革していかないと、例えば小学校でしたらもう少し大きなブロックで一緒に交流させるとか、子ども会に対してもう少し何らかの手を打つとかをしていかないと、本当に子どもが少ないところが増えてきたので、厳しいのではないかなと思います。

ただ、やれることはたくさんあると思うのですけれども、スポーツボランティアを増やすとか、学校の先生以外の指導者を作るとか、そういうことを考えていく必要がある時代になってきたのかなと思います。

委員長：今のお話ですと、水戸市第6次総合計画の中に入っている、放課後子ども教室みたいなものを、きちっと頑張れという話も出ています。私はたまたま茨城大学ですから常磐小学校区なのですけれども、そこでは何でも会というのが非常に大きな力を持っていて、子ども会の参加率がガクッと下がってきていてどうするかというのも一生懸命考えています。考えても下がっていくのでしょけれども、それにしても地域の方々は頑張っています。

その他に何かありませんか。

___委員：総合型の地域スポーツクラブからです。今、学校のスポーツ教育が行き届かないという話がありましたけれども、まさにその通りだと思います。総合型地域スポーツクラブというのは皆様には馴染みがないかもしれませんが、総合型というのは幼児から高齢者まで、男女、障がい者を含めて全ての人を対象にするということが1つ、全てのスポーツができる、更にいろいろなスポーツをやっている人が1つに集まってコミュニケーションをとる、こういう全てを併せたのが総合型ということで、それが地域に密着して行えるということが地域スポーツクラブ、併せて総合型地域スポーツクラブというのですけれども、文科省の推進事業として、スポーツ基本計画が改定されたときに出てきたのですけれども、我々はそれから3年から4年遅れて発足したのですけれども、どうしても我々には施設がない。だから結局、行政の支援・協力を頂かないとできないというのが1つあります。それからお金がない。お金がないということはいろいろな事業をすることができないので、総合型は会費を取って自立していけよという教えなのです。受益者負担という形で、掛かるお金は会員から集めなさい。けれどもお金を払うのでは人は来てくれない。そういうことで今は toto の助成金を受けています。その助成金のほとんどは、指導者の謝金なのです。色々な指導者を呼んで、その謝金にほとんどお金を取られるということになります。それでこの助成金も、いずれはなくなります。その時に自立しなさいよと、こういう教えでやっています。

現在、我々のところでは200人ちょっとの会員なのですけれども、学校に行き始めると、学校のスポーツのクラブに入ります。会社に行くと会社のスポーツをやります。だから、我々の会員は幼児と高齢者が圧倒的です。中には小学生、中学生、大人でも、言葉は悪いですがけれども落ちこぼれ、そのクラブにいて活躍できない人、やれない人、

それでもスポーツをしたい人を我々が受け入れています。それでも若い人は少なく、ほとんど高齢者が多いですが、それでも地域には喜ばれております。そんなに水戸市全体から集まって来るようなことではなくて、地域の人が自転車、または歩いて来れるようなところで、いろいろなスポーツをやっているということで、そういう点では学校教育とは違って、他で困った人を集めてやれるということなので、我々だけではなくて、水戸市でも地域、地域にいっぱいあれば、そういう人たちがいっぱいになるのではないかなと考えています。

委員長：ありがとうございます。私もまだ総合型までにはなれませんが、双葉台のテニスクラブに入っているのです。ほとんど私が一番若いぐらいの高齢者ばかりです。それで一緒にやっているのですけれども、全然やらない人もいるし、お話ばかりしている人もいます。つまり居場所なのです。私もあと4年で退職ですけれども、女房と喧嘩をすると一人ではつらい。でも、そこに行けば仲間がいるのです。あと10年ぐらいは生きているのでしょうから、あと10年は仲間がいるから本当に幸せです。

___委員：我々はスポーツをするだけではなくて、スポーツや教室が終わった後に、お茶飲みをしてお菓子を食べてということが大切だと、コミュニケーションを一番の柱にしております。

委員長：そうですね。そういう場を設定できるというのは、おそらくアシスタントマネージャーがいるからなのですね。縁の下の力持ちの指導者の方がいるからなのですね。名前はアシスタントマネージャーですけれども、やっぱり指導者なのです。

___委員：我々はアスリートよりも、アスリートになれない人を対象にしていますので、それでもスポーツを楽しみたいという人を対象にしています。

委員長：ありがとうございました。

それでは今後の審議会の進め方はどういたしましょうか。2回目の招集は事務局からあるのですね。それまでに一応、目を通していただいてということになりますね。かなり前の部分もあるし、今現在の第6次総合計画一みと魁プランの中身も重要な部分が入っているという気はしますし、様々な問題もありそうなのですが、一応、皆さんこれを読んできていただいて、ここは違うという意見もあるかもしれませんが、次も持ってきていただいて、集めて修正するというところでよろしいですか。

執行機関：よろしいでしょうか、今回は9月から10月の間ぐらいで予定をしたいと思うのですけれども、委員長がおっしゃられたように、まずはこちらの、前に作られたものを大変でも目を通していただいて、何か意見があれば次回に頂ければと思います。その中でアンケートですが、前回は平成22年ということで古いものですから、アンケートの内容を見ていただいて、これでは今にそぐわないのではないかとか、こういう項目を入れたほうがよいのではないかとかというものがあれば、次回の時にお話しいただいて、期間がどうしても掛かりますので、アンケートのほうは早急にやりたいと思います。

ですから今回は特にアンケートの中身を精査していただいて、そこで決められればと思います。そのためには、先ほど申しました推進計画の中身を読んでいただいて、どの様なアンケートが必要かというのを頂ければと思います。

委員長：そうですね。前回、前々回のアンケートは、20歳以上を対象にしたアンケートでございましたね。今、事務局からお願いがありましたけれども、アンケートについて次回はやりますし、その上でも水戸市スポーツ推進計画の案に目を通していただいて、ここはちょっと直したほうが良いのではないかという所は赤でも入れていただいて、事務局に渡していただければ、非常に参考になるかと思えます。あとは事務局で全部まとめて、修正すべき所は修正して、見直すべき所は見直すということにしたほうが良いと思えます。

では皆様、今の事務局のお願いをよろしくお願ひしたいと思います。